

病害虫発生予察情報予報第 7 号 (11 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

| 作物名 | 病害虫名 ^{注1)} | 11 月の予想発生量 ^{注2)} | | 病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病害虫 |
|--|---|---------------------------|-----|------------------------------|---|
| | | 平年比 | 前年比 | | |
| オオムギ コムギ | 網斑病 | やや多 | 並 | 137~138 |  オオムギ 網斑病 |
| | シロトビムシ類 | やや多 | 並 | 141 | |
| | 1. シロトビムシ類 常発圃場 (コムギ、ハダカムギ等) では、種子粉衣または塗沫処理を徹底する。 | | | | |
| 麦類全般 | 1. 種子伝染性病害 (オオムギ網斑病、麦類裸黒穂病) 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する (防除のてびき p133~134 参照)。 | | | | |
| 大豆 | 1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。 | | | | |
| タマネギ | べと病 | 並 | 並 | 260~263 |  ハダニ類 |
| | ボトリチス葉枯症 | 並 | 並 | 264 | |
| | ネギアザミウマ | 並 | 並 | 271~272 | |
| | 1. べと病 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。本圃の準備は時間に余裕をもって行い、適期に定植する。本圃での発生を抑えるために、育苗期および定植前後の薬剤防除を確実に実施する。 2. 乾腐病 前年に発生した圃場など、発生の恐れがある本圃に植え付ける場合は、地床育苗の苗は、定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は、定植前日に同薬剤をトレイに灌注する。 3. 細菌性病害 (軟腐病、腐敗病等) 多湿にならないよう、排水対策を行うとともに、育苗期から薬剤防除を徹底する。発病株は速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出し処分する。 | | | | |
| イチゴ (本圃) | ハダニ類 | 多 | 並 | 211~212 |  ハダニ類 |
| | うどんこ病 | やや少 | 並 | 201~203 | |
| | アブラムシ類 | 多 | 多 | 216~217 | |
| 1. ハダニ類 一部の圃場で多発生している。薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。また、天敵を利用する圃場では、天敵への影響が少ない薬剤を用いてハダニの密度を 0 頭レベルに抑えた後に、天敵 (カブリダニ類) を放飼する。 2. アブラムシ類 定植後、一部の圃場で発生が多い。未発生・少発生圃場では、発生初期に薬剤防除を徹底する。 | | | | | |

| 作物名 | 病虫害名 ^{注1)} | 11月の予想発生量 ^{注2)} | | 病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病虫害 (抜粋) |
|---|---|--------------------------|------------|------------------------------|--|
| | | 平年比 | 前年比 | | |
| キュウリ | べと病 | やや少 | 少 | 180~181 |  退緑黄化病 |
| | うどんこ病 | やや少 | 並 | 178~179 | |
| | 褐斑病 | やや少 | 並 | 183~184 | |
| | アザミウマ類 | やや少 | 並 | 193 | |
| | コナジラミ類 | 多 | やや多 | 192 | |
| 1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病、タバココナジラミ：退緑黄化病 これらのウイルス病罹病株を認めた場合は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、植替え時は、次作での発生を防ぐため、キルパーを用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、18日以上（地温15℃の場合）空けてから定植する。 | | | | | |
| トマト | コナジラミ類 | 多 | 多 | 152~154 229~231 | |
| | 1. タバココナジラミ：黄化葉巻病 本年は、コナジラミ類の発生が多いので、防除対策を徹底する。また、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分する。 | | | | |
| 野菜共通 | チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ) | やや多 | やや多 | 163~165 仔ゴ：214~216 |  オオタバコガ |
| | 1. オオタバコガ 一部地点のフェロモントラップによる誘殺数が多いため、発生状況に注意する。 | | | | |
| キク | 白さび病 | 並 | 並 | 377~378 |  ハダニ類 |
| | アザミウマ類 | 並 | 並 | 382~383 | |
| | アブラムシ類 | やや多 | 並 | 384~385 | |
| | ハダニ類 | やや多 | 並 | 383~384 | |
| | ハモグリバエ類 | 並 | 並 | 386~387 | |
| | チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ) | 並 | 並 | 385~386 163~165 | |
| 1. ハダニ類 圃場によっては発生が散見されている。多発し高密度になると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。 2. オオタバコガ 一部地点のフェロモントラップによる誘殺数が多いため、発生状況に注意する。 | | | | | |

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
4 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

11 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 11 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 2 年 10 月 22 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年やや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

| 要素 | 1 ヶ月予報における 11 月の気象予報（確率予報%） | | | 病害虫の発生に関与する気象条件（平年比） |
|-----|-----------------------------|------------------|--------|----------------------|
| | 低い(少ない) | 平年並 (佐賀市の平年値) | 高い(多い) | |
| 気温 | 20 | 30 (12.9℃) | 50 | 高 |
| 降水量 | 40 | 40 (76 mm) | 20 | やや少 |

Ⅲ. 11月の予報

オオムギ

1. 網斑病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 令和2年産での発生状況

①定期調査(令和2年4月15～20日調査)

発生茎率：100%（平年46.4%、令和元年産47.6%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)近年、本病は多発生傾向にある。本圃での発生を抑えるため、種子消毒を徹底する(特記事項（麦類全般参照）。

コムギ

1. シロトビムシ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 令和2年産小麦での発生状況（図1参照）

発生圃場率2.7%（平年1.8%、令和元年産1.1%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)播種時期は遅くならないようにする。
- (2)被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。
- (3)被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。
- (4)その他防除対策については、特記事項を参照する。

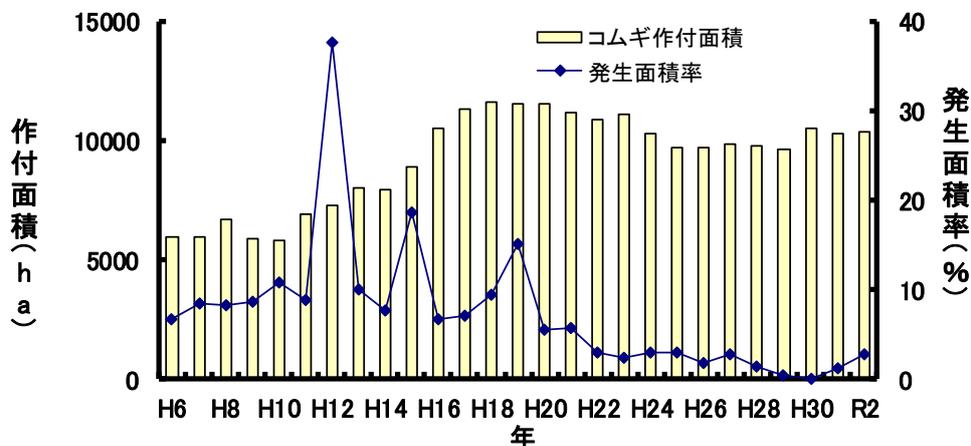


図1 シロトビムシ類のコムギでの発生面積率の年次推移

タマネギ

(定期調査 20 育苗圃場)
調査日：10月20日～22日



定期調査圃場(苗床)の様子

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

(11月に発病することはまれであるが、苗床あるいは本圃で感染するリスクがある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (苗床)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

(2) 圃場の菌密度 (本圃)

近年の発生は多いため、本圃の菌密度は高いと推察される。(±~+) (図1参照)

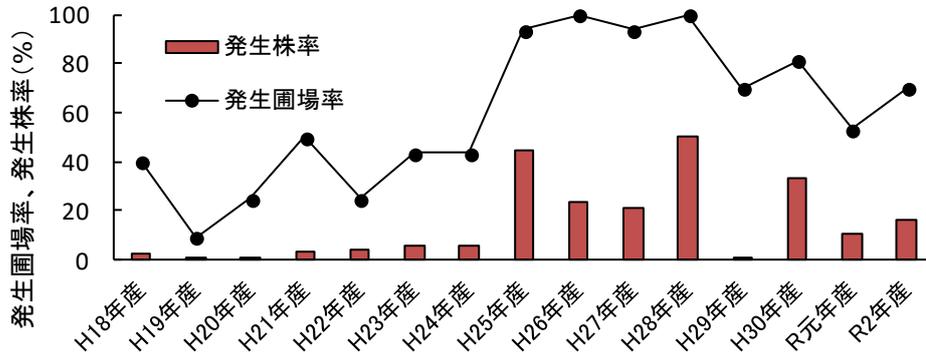


図1 本圃でのタマネギべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移

※4月下旬の定期調査結果を示す。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

(2) 11月の気象予報

気温が平年より高く、降水量が平年よりやや少なく、並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期から防除を徹底する。

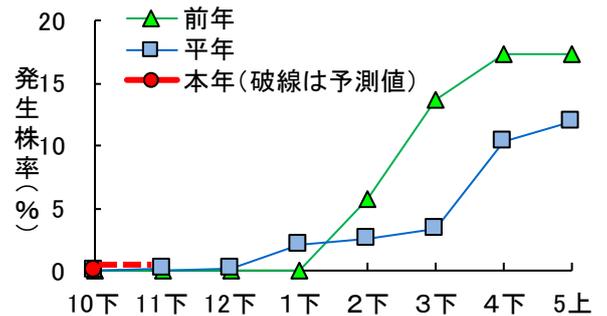


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

注)10月下旬は、苗床を調査。

3. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況（図1参照）
発生株率：0%（平年0.2%、前年0%）
平年比：やや少（-～±）
前年比：並（±）
 - (2) 11月の気象予報
気温が平年より高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本圃へ本虫を持ち込まないように、苗床での防除を徹底する。
 - (2) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているの、薬剤のかけむらがないように散布する。

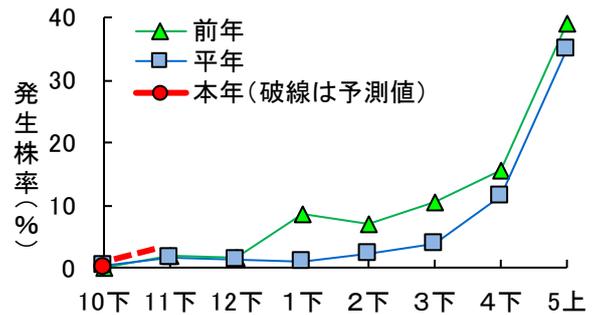


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注) 10月下旬は、苗床を調査。

イチゴ（本圃）

（定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場）
調査日：10月20～23日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

[【概要に戻る】](#)

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：19.5%（平年4.0%、前年6.6%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項参照。

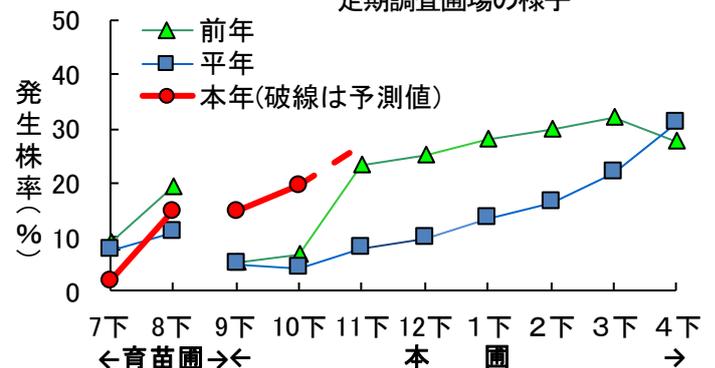


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年6.6%、前年3.7%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - (2) 11月の気象予報
降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件（-～±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 約10～14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、前述の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。

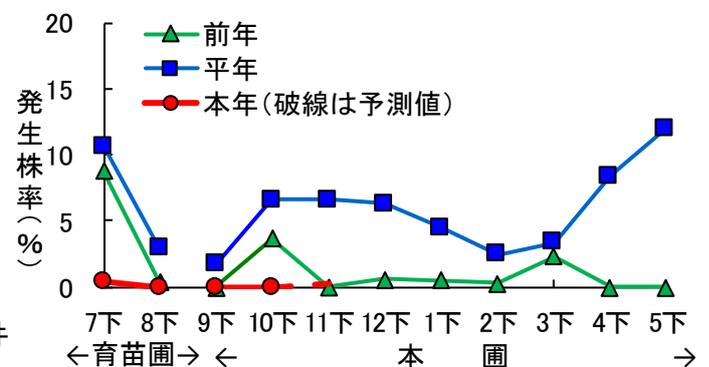


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：10.0%（平年2.2%、前年4.3%）
平年比：多<+> 前年比：多<+>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P541～544）。
 - (2) その他については、特記事項を参照する。

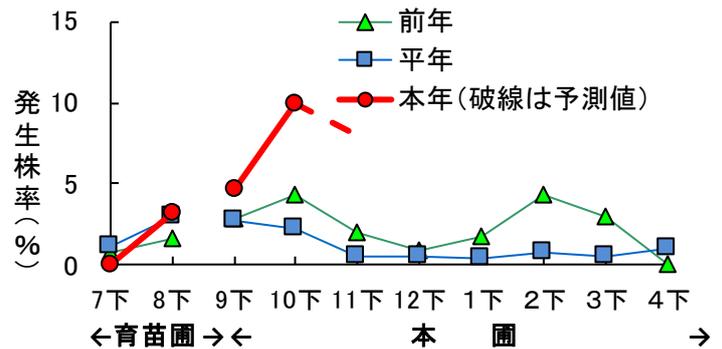


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ（抑制）

（定期調査5圃場、防除員4圃場）
調査日：10月16日～22日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：3.3%（平年16.6%、前年21.7%）
平年比：少<-> 前年比：少<->
 - ②11月の気象予報
降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件（-～±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 湿度が極端に高くないよう、適正な湿度管理に努める。

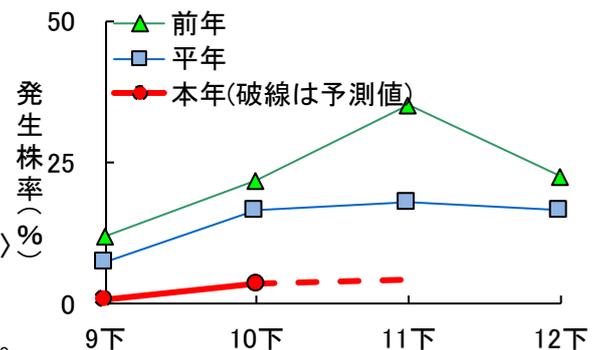


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：1.1%（平年3.4%、前年0%）
平年比：やや少<-～±> 前年比：並<±>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

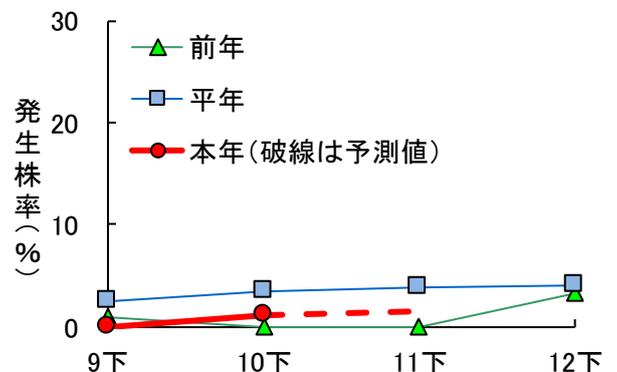
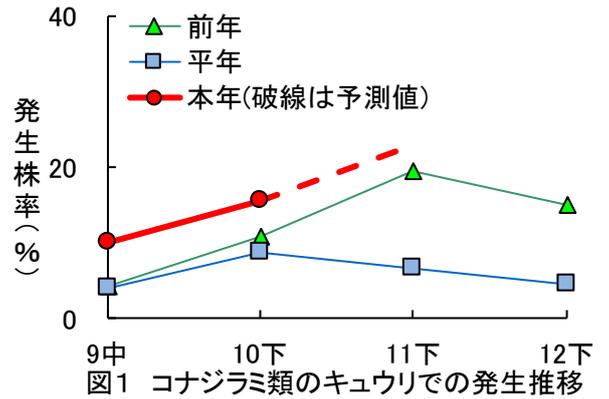


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：15.6%（平年8.8%、前年10.8%）
平年比：やや多〈±～+〉 前年比：やや多〈±～+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。



トマト

定期調査：5圃場、防除員4圃場
調査日：10月21～22日

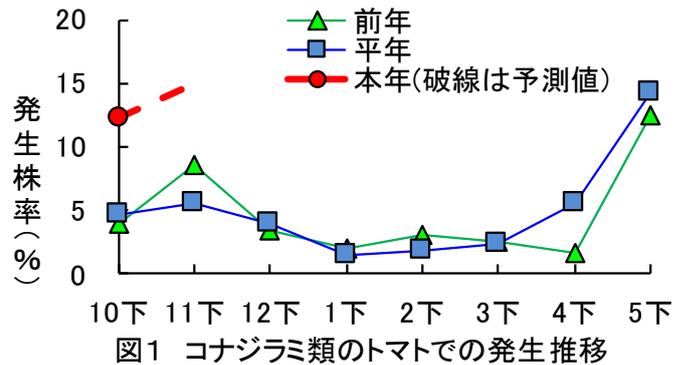
1. コナジラミ類

[【概要に戻る】](#)

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1参照）
発生株率：12.2%（平年4.6%、前年4.0%）
平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子



野菜共通

[【概要に戻る】](#)

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
(1) 発生の現況
①定期調査（図1～4参照）
- ②フェロモントラップによるハスモンヨトウの10月の誘殺数は、平年並で推移している（図3）〈±〉
- ③フェロモントラップによるオオタバコガの10月の誘殺数は、平年並で推移しているが、一部地点での誘殺数が多い（図4,5）〈±〉
- ④フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの10月の誘殺数は、平年並で推移している（図6）〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
(1) 発生程度は、圃場毎に大きく異なるため、必ず圃場での発生状況を確認する。

| 作物名 | 食害株率 (%) | 平年比 | 前年比 | 平年値 (%) | 前年値 (%) |
|--------|----------|------|------|---------|---------|
| イチゴ | 18.3 | 多〈+〉 | 多〈+〉 | 7.7 | 8.6 |
| アスパラガス | 0 | 並〈±〉 | 並〈±〉 | 0.1 | 0 |

- (2) 薬剤防除にあたっては、使用方法（収穫前日数等）を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
 (3) 幼虫は、齢が進むと薬剤の防除効果が上がりにくいいため、若齢幼虫期に防除を行う。

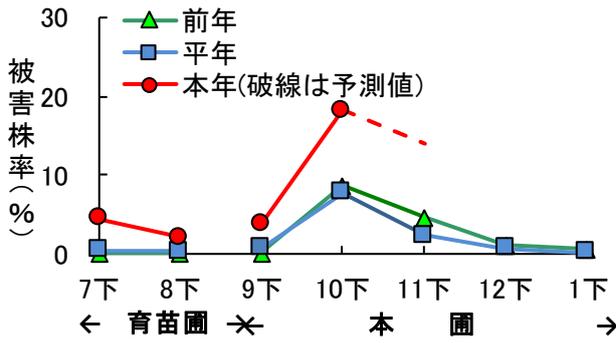


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

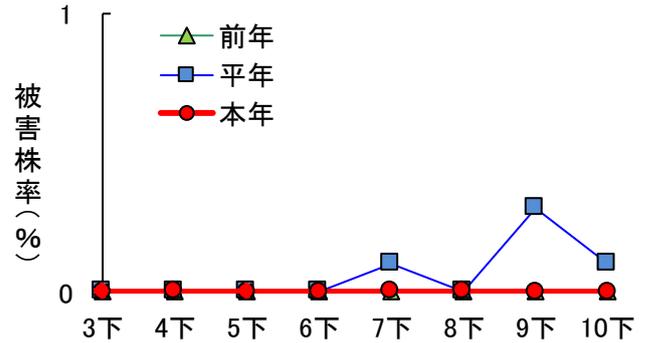


図2 チョウ目害虫によるアスパラガスの被害株率の推移

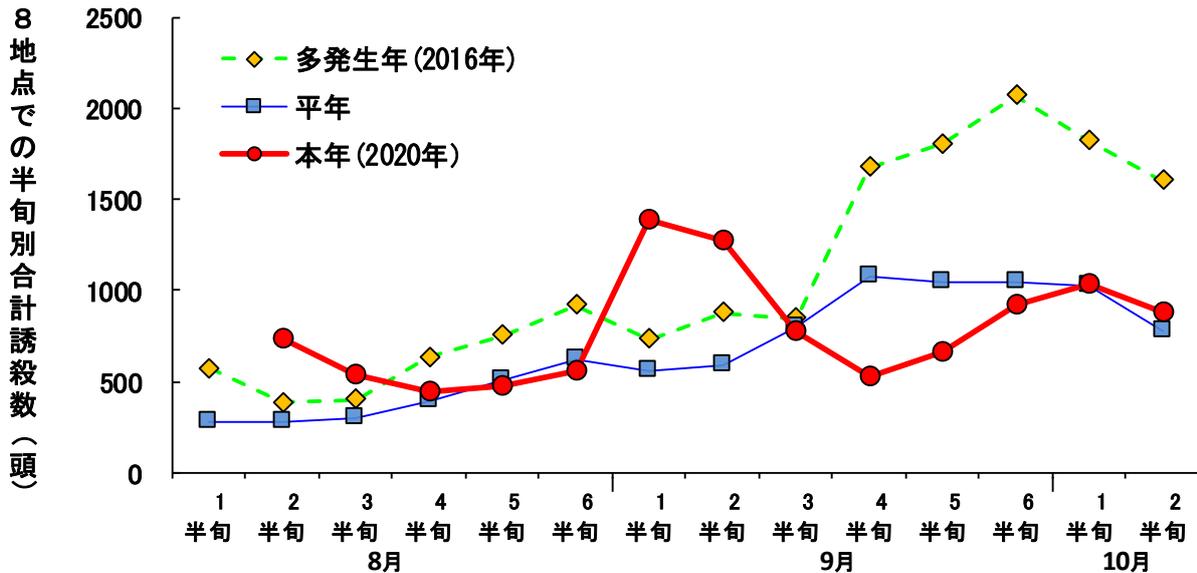


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（10月2半旬まで）
 （農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数。）

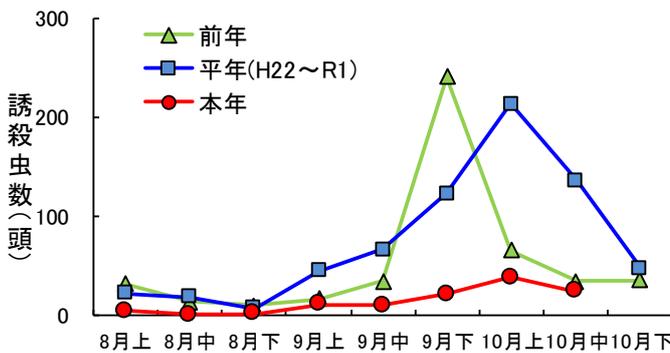


図4 フェロモントラップによるオオタバコカの誘殺数
 （川副町2地点の平均・病害虫防除員調査）

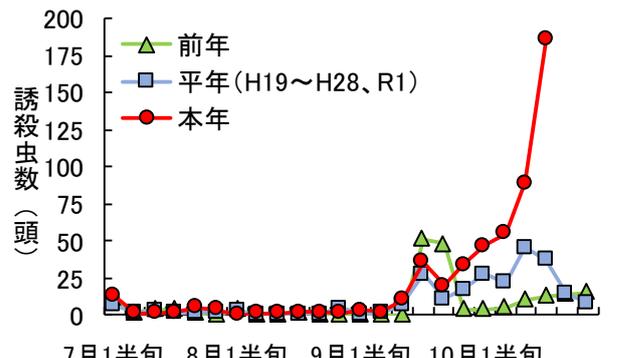


図5 フェロモントラップによるオオタバコカの半旬別誘殺数
 （川副町・農業試験研究センター調査）

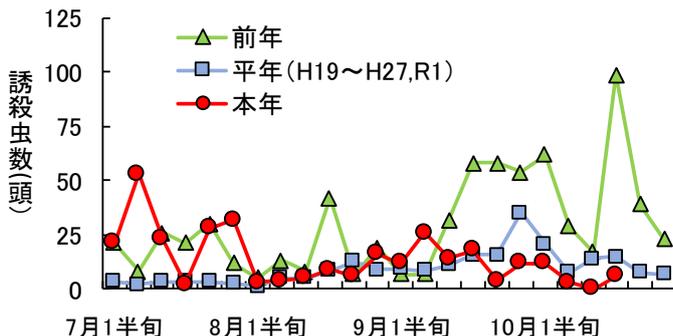


図6 フェロモントラップによるソイイモジヨトウの半旬別誘殺数
 （川副町・農業試験研究センター調査）

キク

定期調査：8 圃場
調査日：10月20～22日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 11月の気象予報

降水量が平年よりやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

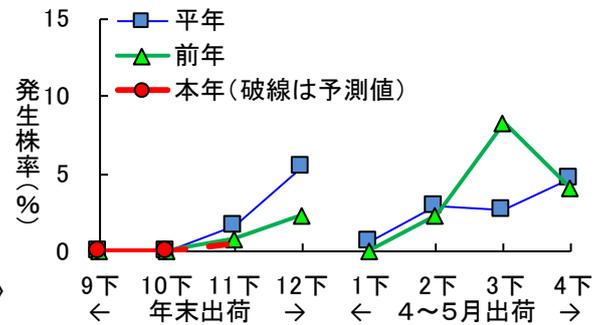


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クダハアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率7.5%（平年5.4%、前年20.3%）

平年比：並（±） 前年比：少（-）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は葉裏や生長点付近など薬剤のかかりにくい部位に生息しているので、薬剤散布時にはそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (2) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病（TSWV）・茎えそ病（CSNV）の発病株は早急に取り除き、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

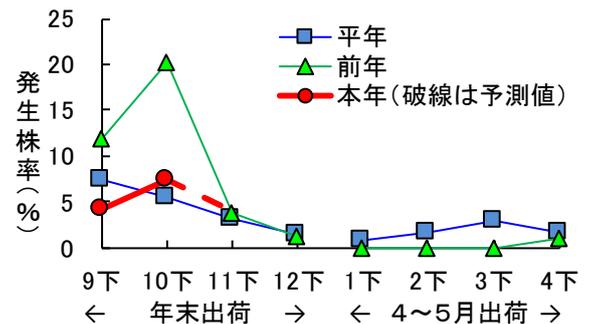


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率5.5%（平年3.1%、前年0%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤がむらなくかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

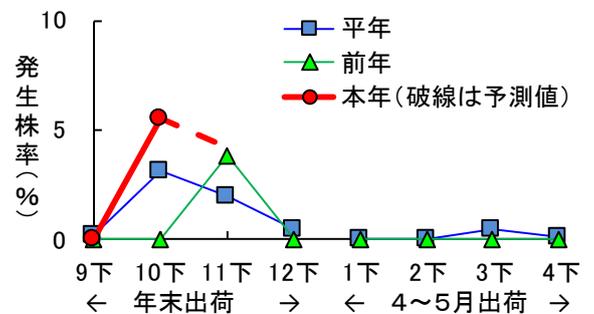


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

4. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 14.3%（平年 9.4%、前年 8.3%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については特記事項を参照する。

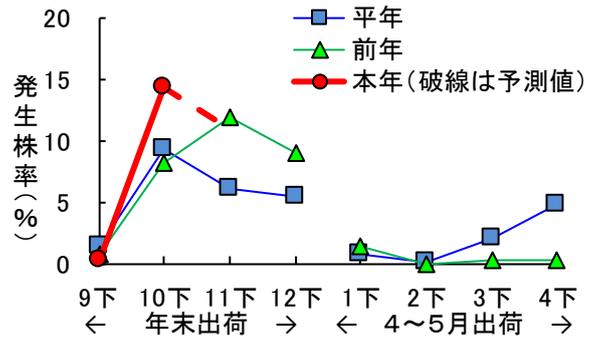


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

5. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、材バコガ、シイデジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率 0%（平年 1.3%、前年 0.8%）

平年比：少（-） 前年比：やや少（-～±）

②フェロモントラップによる誘殺数

野菜共通の項参照（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 野菜共通の項を参照。

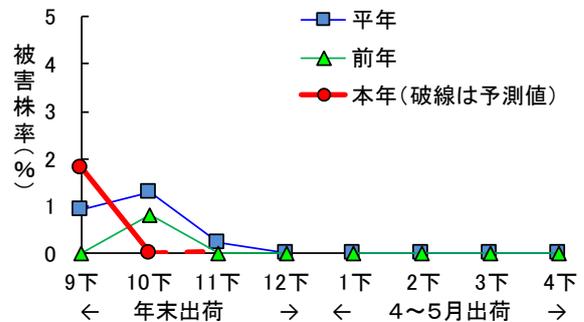


図1 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp